

Think Safety

止まる・見せる・見るの3ステップ
見通しの悪い交差点の安全な進み方

安全のつくりかた
～シートベルト編～



安全は、どのようにつくられている？

巻頭インタビュー
ライダーであり、ドライバー
そして一児のパパである
福田充徳さん
(チュートリアル／お笑いタレント)





店内には現行ラインアップのほとんどが展示されているホンダドリーム店。バイクを見る目も、「あ、こんないパーツ付いてるんですね!」と自然とシリアスになる。

「クルマと比べると、バイクの方が高い機動力を持っていますから、何かあったらすぐ避けられるように、いつもまわりのクルマに気を配っているんです。それで、クルマを運転する時も、もうクセなんでしょうね、キョロキョロするわけじゃなくて、ホント無意識にルームミラー、バックミラーと全方位に気をつけています」

「クルマを運転している時、視界にバイクが入ったら『あ、次こう動くだろうな』と思うと、ほぼ予想通りの動きをすることが多いのだという。それは福田さんのライダーとしてのキャリアがなせる技。その能力は、視界に自転車が入っても、歩行者が入っても同じこと。なぜなら、福田さん、お子さんを自転車で幼稚園に送り迎え



ドリーム店に展開されているレンタルバイク「HondaGO BIKE RENTAL」のコーナーで。「今は人気のバイク、気になるバイクをレンタルで好きに乗れるんですね。ええシステムやなあ」

「横断歩道を渡ろうとする人がいるのに、クルマが止まらないの、よく見ますよね。アレが大っ嫌い(笑)。ドライバーは、歩行者がいたら止まらなければいけないことをわかっていない

クルマからバイクを見て 次の動きを予測する

を配り、視線を配って走るとは、バイク乗りにとっては半ば常識的なこと。事故に遭ったときに、クルマとは比べ物にならないダメージを受けるバイク側の、自己防衛の本能なのだろう、と福田さんは言う。

「クルマの動きを見ているから、常にするパパであり、街を歩く時も、常にクルマの動きを見ているから。『こともができてから、やっぱり歩行者の時でもクルマの動きには気を配るようになりましたね。今どきは、歩行者に何の落ち度がなくとも事故に巻き込まれることだってあるから。こどもに『ほら、こういう時だってまわりのクルマ見てなきゃダメだよ』って教えなきゃ」

毎日のようにクルマで都内を走っていて、横断歩道での歩行者優先についても、気になることがある。

「横断歩道を渡ろうとする人がいるのに、クルマが止まらないの、よく見ますよね。アレが大っ嫌い(笑)。ドライバーは、歩行者がいたら止まらなければいけないことをわかっていない

取材協力店 HondaDream足立



東京都足立区島根3-3-6
電話 03-5809-6155 営業時間 10:30~19:00
定休日 水曜/第3火曜日

東京都足立区の環七通り沿いにショップを構えるホンダドリーム足立。ホンダの現行モデルラインアップの展示車が多数あるほか、レンタルバイク「HondaGO BIKE RENTAL」も取り扱っている。



あの人に聞く!
クルマ&バイク
ライフ

ライダーであり、ドライバー そして一児のパパである

「バイク芸人」としておなじみのチュートリアル福田充徳さん。バイクに加え、もちろんクルマの運転もするけれど、その「バイク&クルマ両方の目」で気づくことがあるという。

全方位に気を配る バイク乗り特有の運転能力

チュートリアルの福田充徳さんといえば、所有バイク台数9台を誇るバイク芸人としてもおなじみ。もちろん、クルマも運転する一児のパパでもある。「バイクはこのところ、サーキットラックが多くて、あまり街中では乗っていないですよ。街中ではライダーでなく、ドライバーであることが多いですね」



撮影にご協力頂いたのは、東京都足立区にある「ホンダドリーム足立」。福田さんは、クラシックタイプやビンテージ風バイクが人気の今でも、フルカウルスポーツバイク一辺倒。またがっているのはCBR650R。

2500ccのスポーツバイクも持っていたが、そちらはツーリングやスポーツラン用。もっぱらデイトに乗る回数が多かった。「初めてのホンダとの付き合い合いはデイトでした。大学生になっても、芸人になっても、通学や近所をうるうるするのにずいぶん乗っていました。キビキビ走るし故障の少ない、いいバイクでした」

2006年に漫才師の祭典「M1グランプリ」で優勝してから上京。ひとり暮らしを始めてから、東京の交通事情の中を走ることになった福田さん。当時から、バイクはツーリングやサーキット用で、街乗りはあまりしなかったのだという。「東京は、ホントにクルマが多い!クルマでもバイクでも、運転が少しも気が抜けません。いつか、相方(注:チュートリアルでコンビを組む徳井義実さん)を乗せてクルマを運転している時『オマエ、ようバックミラー見るよなあ』って指摘されたこともあるんです」

けれどこれは、福田さんなりの安全運転意識の現われた。バイクで街乗りをするときに、常に全方位に気が多い」

クルマの絶対数は多いが、自転車、バイク、電動キックボードと交通社会には登場人物が多く、これから先、都内ではライドシェアという新たな交通手段が誕生する。このような複雑な混合交通下でも福田さんは、まわりに気を配る運転が有効だという。「みんなもつとバイクに乗ればいいのに(笑)。ライダーとドライバー両方の目線で走ると、きつと事故は減りますよ」

安全のつくりかた

シートベルト

編



シートベルトは自動車史のなかで、最も長い歴史をもつ安全デバイスです。「あって当たり前」のシートベルトですが、その安全性能は日々進化しています。



現在、乗用車で主流の3点式シートベルトは、その誕生から半世紀以上が過ぎています。その外観に大きな変化がないため、古典的な安全デバイスと思われることの多いシートベルトですが、開発者たちは安全性はもろろん、使いやすさの向上のため、日々研究開発に取り組んでいます。「安全デバイス」において、エアバッグなどと同じであるとともに、インテリアを構成する一要素でもあります。そのためシートベルトの開発は、衝突安全のほか、シート、ボディ、内装などの担当者をはじめ、さまざまなパートと連携して、そのクルマに最適な製品を作り上げます。また着用率を向上させるためには、取り出しやすさ、バックルへの挿入のしやすさ、そして装着時に圧迫感や不快感のない構造の解析など、商品性を高めるための研究にも多くの時間を費やしています。

こんなところにこだわりも!

近年はワゴンやSUVなどで、シートアレンジが多彩になっていますが、実はこの機能、シートベルトの開発にとってもポイント。ピラーやフロアなど、シートベルトを取り付けられる場所には様々な制約がある中で、どんなシートアレンジでも安全性を確保することが、開発陣の腕の見せ所です。また、前席と後席のシートベルトは一見すると同じ製品に思えるものですが、座席によりウェビング(帯部)やショルダーアンカーの最適な仕様を選定しています。愛車に乗るときに、ぜひその細部を観察してみてください。

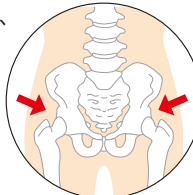


どんなアレンジでも使えて、シートごとに最適化。

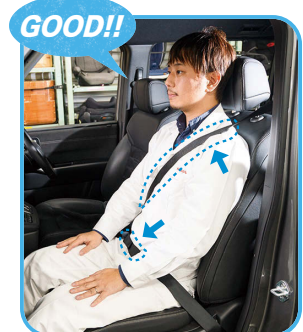
着用時は腰骨がポイント!



上部は肩と首の中央あたり、下部は腰骨の低い位置にかけようとするのが、正しい着用方法(写真左)です。肩が外れ、腰骨より高い位置では、衝突時に上体が前方に投げ出されたり、ベルトが腹部をかかり、内臓を痛めてしまう可能性があります(写真右)。なお成人の腰骨の左右(足の付根の直上あたり/右イラスト)には、



実はシートベルトとほぼ同じ幅のくぼみがあります。そこにベルトをかけるイメージで装着してみてください。ただし、こどもの骨盤形状はまだ成長過程なので、お子さんを乗せるときには必ずチャイルドシートを活用しましょう。



各部が連携、トータルで安全をつくる



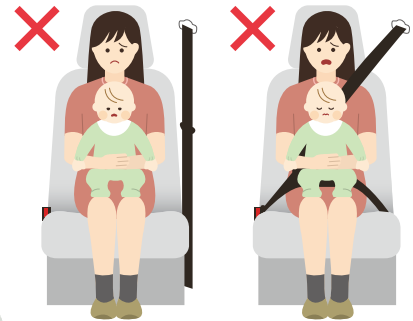
エアバッグも内装も連携して安全を確保!

安全はひとつの部品だけでは完成しません。シートベルトやシート、エアバッグ、ドアトリム、さらにはボディに至るまで、どの部品でどの衝撃を受け止めるかを緻密に計算し、連携してクルマ全体のパッケージで安全性を高めています。シートベルトの取り付け位置によっては、クルマの内装や外観デザインにも影響することもあり、各部が効果を高めるために主張がぶつかることもありますが、お互いにミリ単位で調整していくことで、トータルでの安全性を高めることが開発の大きなポイントとなります。



抱っこは厳禁です!

乗員のまさに命綱であるシートベルトは、すべての乗員を守るために設計されています。しかし、お子さんを抱っこして乗るのは絶対にNGです。衝突時にかかる衝撃の中では、こどもを抱え続けることは人間には不可能です。前席のシート背面と抱えていた乗員の間で押し潰してしまう可能性もあります。お子さんはチャイルドシートに正しく乗せましょう。また、衝突時にお子さんを確実に拘束できるように、チャイルドシートの選定は体重や身長に合った適切なものを選ぶことが大切です。



こちらもCheck!!



JAMA「チャイルドシートで守る子どもの未来」

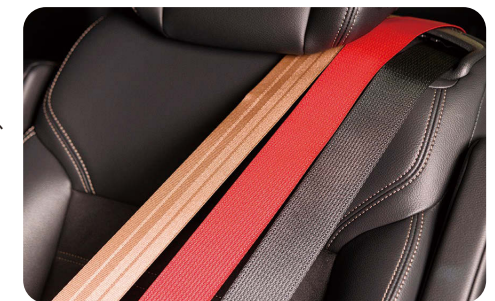


ベルトの色はどうやって決まる?

シートや内装などと馴染む同系色にするなど、車種のコンセプトやデザインで決めています。黒や茶色や紺などが多いですが、色の違いによる性能の差はありません(写真の赤い製品はシビックタイプR用)。ただ、どんな色でも使えるわけではなく、人や服に常に触れているので、肌触りや服に色移りしないことも、色選びの要因になっているのです。



また、「白」はほぼ使われません。というのも、素材であるポリエステル繊維は、紫外線に分解されてしまうので、経年劣化してしまうのです。したがって、耐久性を担保するためにHonda車では採用されていません。



使い心地や車種ごとのコンセプトで選定。



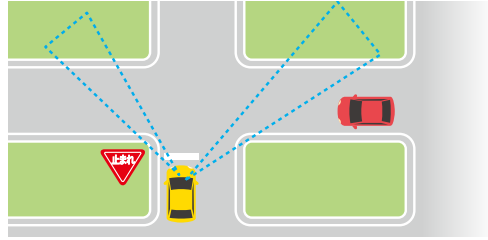
「多段階停止」は安全だけでなく「安心感」も生み出す

1st 停止

止まる



1段階目の停止は、法規に則って停止線で行う。ただ交差点によっては停止線がかなり手前に設定されていることもあるため、交差する車両を目視できないことも多い。

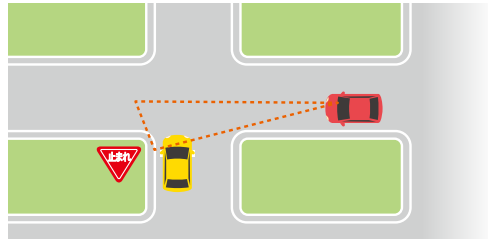


2nd 停止

見せる



第2段階は「見せる」ための停止。運転者が直接交差する交通を目視するためではなく、むしろ車両を交差点にわずかに進入させ、交差する車両にこちらの存在を認識してもらうための目的となる。今回のポイントだ。



バイクや歩行者からはこう見られている

バイクでは特にキープレフト走行が基本のため、クルマよりも運転席から見づらい位置となることが多いので、多段階停止でボンネットの先端を見せることが有効です。また見落とされがちなかどもに対しては、多段階停止を経て、さらにアイコンタクトをとり、しっかりと認識してもらうことで、お互いに安心して交差点を渡れます。

こども視点



バイク視点

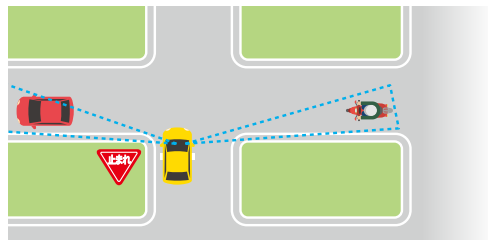


3rd 停止

見る



第3段階は「見るための」停止。交差点に車両が進入している状況となる。「見せる」段階で交差するクルマが通過、「見る」位置まで進むことで、クルマの後ろから来ていたバイクの存在に気がつくことができる。



多段階停止の1段階目は停止線で止まること、そして2段階目は交差する車両や歩行者にこちらの存在を認識してもらうための「見せる停止」と考えましょう。停止線からわずかに前進し、ボンネット先端を交差する車両や歩行者に見せるのが目的です。そして3段階目は、実際にこちらが交差する車両や歩行者を見るための位置まで交差点に進入していくことです。

メリハリを持たせず、ソロソロりと進入していくのに対し、しっかりと3段階で「停止」することで、交差する交通に対して「突然ヌツと出てきた!」「もしかしたらそのまま出てくるんじゃないか?」といった不安を与えることなく、より安心・安全な交差点進入ができます。さらに3段階目でもしっかりと停止することで、「こちら側が交差する車両を認識した」というメッセージを相手に送ることもできるのです。

特に交通事故が起きやすい「見通しの悪い交差点」ではこういった細かい心がけで安全性を高めることができます。是非とも日々の運転に取り入れてみてください。

止まる 見せる 見る の3ステップ

見通しの悪い交差点の安全な進み方



交通事故が発生しやすい代表的な場面のひとつ、「見通しの悪い交差点」。植え込みや塀、あるいは交差点の角度そのものによる場合など、その形態は様々だが、安全に進むテクニックとして「見せる」ことを意識してみたい。

相手の視点になれば
進み方が見えてくる

「見通しの悪い交差点」は運転者にとって緊張を強いられるシチュエーションです。クルマだけでなく、バイク、歩行者など、死角から何が飛び出してくるかわかりません。そこで、交差する交通を確認すべく運転者は前方に乗り出しながらソロソロリと進む、というのが一般的ではないでしょうか。

しかし視点を変えて「見せる」として「見られる」交差点の進入を考えてみましょう。特にクルマの場合、ボンネットがあり、運転席から交差点内の他車を目視するよりも、早い段階で他車から「見られている」、つまり自車を「見せる」ことができるのです。

これは多くの場合、ソロソロリと交差点内に進入する時に副産物的に実践できていることではありますが、敢えて「見せる」ことを意識した「多段階停止」による交差点への進入。この有効性について考えてみます。

「見る」前に、まずは「見せる」ことを考える

左からの歩行者



歩行者の中でも体格が小さいこどもはドライバーとしては見落としやすい対象。さらに歩行者は右側通行が基本ルールであるため、ドライバーから見て死角となりやすい左脇の歩道にいることが多い。

左からの自転車



交差する車両が通り過ぎ、交差点に進入した際、さらに左側から自転車が交差点に進入してくる可能性も。クルマよりも小さく目視しにくいことに加え、意外とスピードが出ている自転車には注意が必要。

右からのバイク



交差点に進入する際、特に死角に入りやすい右からの交通は目視しにくい。最初からクルマの先端部を交差点内に出し過ぎると、ドライバー・ライダーがそれを避けて対向車側に膨らむという二次的な危険も誘発しやすい。



あなたから おもうこと できること

2024春

Safety Japan Action

展開中

2024年4月1日(月)～20日(土)

運転する
みなさん!
いっしょに

小学1年生も
まもるニャン!



うたのおねえさん
小野あつこさん



できるニャン



あつこおねえさん、
できるニャンとお約束して、
プレゼントをもらおう!!

X (Twitter)

Instagram

FaceBook



交通安全の情報を発信中!
フォローしてニャン♪



Think Safety 読者アンケート&プレゼント

下のQRコードにアクセスして、アンケートにご回答ください。抽選で写真のHondaグッズをプレゼントいたします。みなさまのご応募をお待ちしています。

アンケート締め切り:
2024年4月20日(土)

当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。なお、ご応募はおひとり様につき1回限りとなります。



① WR-V 1/43ディスプレイモデル (Hondaオリジナルパッケージ)

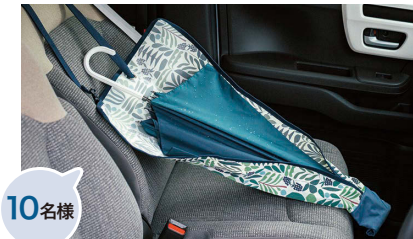
5名様



今号の表紙車両にもなっている新型SUV、WR-Vの43分の1スケールダイキャストモデル。カラーはイルミナスレッド・メタリックとなります。

② studio CLIP×Honda 傘カバー

アパレルブランド「studio CLIP」とのコラボレーションによる車内用の傘カバー。助手席でも広げて使える2WAY仕様。



10名様

表紙の車両

WR-V

2024年3月発売の最新SUVモデル。すべての人が安心して運転できるSUVを目指し、操作性や安定性、乗り心地を追求、全タイプに安全運転支援システム「Honda SENSING」も標準装備しています。またクラストップの荷室空間を確保することで多様なニーズに対応します。



Honda E-clutch

イタリアのEICMA 2023で世界初公開したE-Clutchは、クラッチコントロールを自動制御することで、ライダーの手動によるクラッチレバー操作が不要になり、違和感のないスムーズなライディングを楽しめます。搭載モデル第1弾はCB650R(表紙)とCBR650Rになる予定(国内発売時期未定)。

